

近代日本における 智の展開

福澤 諭吉
小幡篤次郎
同著

幕末から明治にかけて、日本人の智はどのように
変化し展開したのでしょうか？

刊行から150年を迎えた『文明論之概略』の中
で、福澤諭吉は「智徳」について論じています。
彼が近代日本形成に大きな影響を与えた思想家
であることは、万人が認めるところでしょう。しかし
彼の傍らでその活動を支え続けた小幡篤次郎は、
同時代人の評によれば、福澤に勝るとも劣らない
学識の持ち主であったにも拘わらず、今や知る人の
少ない存在になっています。彼らが追い求めた智に、
その相違はあったのでしょうか。今回の講座では、
福澤諭吉と小幡篤次郎という2人の人物を通して、
近代日本における智の行方を考えます。

講座開催概要

【開催方法】

オンライン (Zoom) および KOCC 会場
(会場定員50名程度)

◎講演当日は、講演者をご参加者様のご質問にお答えします。

【開催時間】 14:00～16:00

【申込方法・締切】

Web申込、各回開催日直前の火曜日まで

【受講料】

1 講演 各1,500円 (税込み)

詳細・申込はこちらから
(慶應大阪シティキャンパスホームページ)



※受講登録者向けに、
見逃し配信 (期間限定) を予定しています。

こ
案
内

福澤研究センター講座 2025年度

『近代日本における智の展開』(全4回)

① 10/25、② 12/20、③ 1/31、④ 3/14

[会場・お問い合わせ]



慶應大阪シティキャンパス

〒530-0011

大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪
ナレッジキャピタル 北館タワーC 10階

<https://www.korc.keio.ac.jp/>



ガクモンノススメ

www.keio.ac.jp/ja/gakumon150

第1回 | 2025.10.25(土)

福澤諭吉と小幡篤次郎の源流 —中津藩士と学問の系譜

松岡 李奈 慶應義塾福澤研究センター助教

福澤諭吉が青年期まで過ごした中津藩は、「門閥制度は親の敵」と表現したように、克服すべき旧弊である一方で、福澤の学問的下地を形成した場所です。福澤を支えた小幡篤次郎も、藩校や私塾で学び、士族社会の中で理不尽な経験もしながら成長しました。彼らが中津藩で得た高い漢学の見識や経験は、その後の思想形成に影響を与えたと考えられます。本講演では学術や士族社会、思想を中心に中津藩での経験を彼らに与えた影響について考察します。

第2回 | 2025.12.20(土)

小幡篤次郎における西洋社会思想 —道徳・政治・経済

山尾 忠弘 大阪経済大学経済学部准教授
慶應義塾福澤研究センター客員所員

小幡篤次郎は福澤諭吉とともに慶應義塾草創期を支え、西洋社会思想を日本に伝えるうえで欠かせない役割を果たした人物です。本講座では、福澤が思想を日本の現実に即して翻案したのに対し、小幡が翻訳を通じて原典の思考を導入した点に注目します。『宗教三論』や経済学書などの翻訳を取り上げつつ、道徳・政治・経済をめぐる小幡の議論の展開をたどりながら、近代日本における思想史研究の基盤を形成するのに小幡がどのように寄与したのかを考えます。

第3回 | 2026.1.31(土)

小幡篤次郎が読んだ『アメリカのデモクラシー』 —小幡篤次郎とトクヴィル、そして福澤諭吉—

柳 愛林 九州大学法学研究院政治学部門准教授

明治8年6月の『民間雑誌』第11編には、小幡篤次郎の論説「嫡子に限り家督相続を為すの弊を論ず」が掲載されています。長子相続を批判する中で小幡は、トクヴィル『アメリカのデモクラシー』を引用し、独自の議論に援用しています。そこで言及される「平均を求るの卑屈心」(depraved taste for equality)は、福澤諭吉の「怨望」論とも響き合います。小幡によるトクヴィル思想の受容と福澤への接続を考察することで、明治初期の知的展開の一端を示したいです。

第4回 | 2026.3.14(土)

福澤諭吉の思想的源泉

安西 敏三 甲南大学名誉教授
西澤 直子 慶應義塾福澤研究センター教授

福澤は『文明論之概略』において、古今の論説を通じて現状を把握し、道理を見極め、最高善を追求し、後世の社会の見通しを示す、と宣言しています。中でもミルの論説は、バックルやギゾーのそれと共に、彼の最大の思想的源泉の一つです。福澤の両眼主義、あるいは智徳論や習慣論を取り上げ、福澤の儒学も踏まえてのミルとの対話を主として、拙著『福澤諭吉の思想的源泉』に触れつつ、その補訂も兼ねて問題に接近し、討論の一つの糧にしたいと思います。

※〈前半〉安西氏による50分程度の講演、休憩を挟み、〈後半〉は安西氏と西澤氏の対談形式を予定しています。



小幡 篤次郎 Tokutomi Obata

天保13(1842)年～明治38(1905)年。豊前国中津藩(現大分県中津市)の二百石取りの上士の子として生まれる。教育者、貴族院議員、慶應義塾長、慶應義塾社頭。元治元(1864)年学塾運営の協力者として福澤諭吉に乞われて出府、福澤の塾に入り、以後教育経営両面から福澤を助けた。

福澤 諭吉 Yukichi Fukuzawa

天保5(1835)年～明治34(1901)年。大阪の豊前国中津藩蔵屋敷にて十三石二人扶持の下士の子として生まれ、一歳半で父の急死により中津(現大分県中津市)へ戻る。明治時代を代表する思想家、教育者、言論人。慶應義塾の創設者。小幡篤次郎、和田義郎他、慶應義塾社を支える人材を育てた。

